

『理想と現実』～あなたは逃げ道を作っていませんか？～

【ヨハネ 14:1～24】

「しかし」、「やがて」、「ただ」、「だって」、「そして」という接続詞がありますが、「だって」という言葉はどのような時に使っているのでしょうか。多くが言い訳をする時ではないでしょうか。「だって、しょうがない」「だって、あの人が〇〇言ったから」などです。そのように私達は夢や願い事に向かっている時に、叶わなかった時のことを考えて、言い訳を用意してはいないでしょうか。常に失敗した時の事を考えて、逃げ道を準備してはいないでしょうか。逃げ道ばかりを考えていて、夢や願い事に対して、真剣に取り組めていない状況をつくってはいないでしょうか。それでは優先順位が間違っているのではないのでしょうか。まず第一に夢が叶う事や、願い事に対して、成功する事だけを考えて物事に取り組む事が大切なのではないのでしょうか。サタンは誘惑してきます。妨害してきます。それに耳を傾げるかは私達自身の問題なのです。聖書の人物を見ていきましょう。アダムとエバも言い訳をし、エデンの園を追放されました。罪の性質がここから始まりました。信仰の父と称されるアブラハムもアブラム時代に自分の妻を妹と2度偽っています。ヨブは犯してもいない罪のために、心を向けていました。モーセは、杖を逃げ道に使った事によりカナンへ入国できませんでした。聖書には「明日のために心配は無用」であることが書いてあります。したがって、現実と理想の間で**①心を騒がせない**。事が大切です。心が動揺していたり、騒いでいると、冷静な判断や決断ができなくなります。**②自分には備えがあると信じる**。「主の山には備えがある。～アドナイ・イルエ～」です。アブラハムはイサクをささげに行く時、主が備えて下さっていると信仰を持っていました。私達も現実の問題において、逃げる事をしないで、主への信仰を持っていきましょう。**③人には出来ない事が神には出来る**、だから私にもできる。主は人を通して、この世に栄光を顕そうとしておられます。私を通して、神がなさろうとしておられる事を止めてはいけません。逃げ道を選択しないようにしましょう。イエス様は心の扉を叩いておられます。その声に応えていきましょう。